

2018年度は“看護実践”に力を入れていきます。患者・家族そして自分自身の“いのちのケア”ができる、そんな年になるといいですね。新たな仲間とスタートです。

(ホスピタグループ腎透析事業部 統括看護部長 岡山ミサ子)

## 新生会第一病院 新病院 最新情報！



新年度を迎え、新生会第一病院の新築移転が現実になつて近づいています。新しい仲間もたくさん増えたので、さらに充実させた医療看護の提供を目指します。また、6年に一度の診療報酬と介護報酬の同時改定が行われる重要な年です。外来、透析、病棟全体に厳しい状況の中、質を保ちつつ効率化した業務が求められます。これらをチャンスと捉えて、皆で協力して進んで行きましょう。

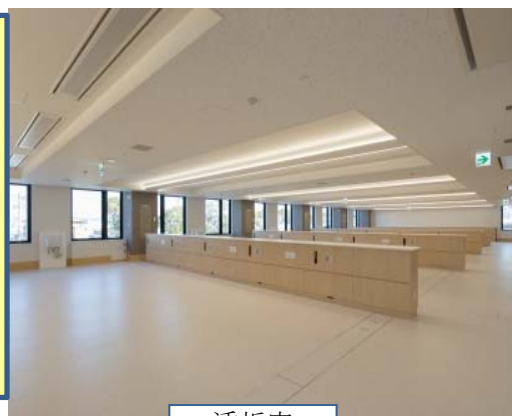
(新生会第一病院 看護部長 宮下美子)

### 病院の内部をご紹介☆



ナースステーション

一般病棟は地域包括病床が20床へ増床し、療養病棟は2病棟になります。大部屋は4床室となり、プライベートな空間が守れるようにお隣と家具で仕切る造りになっています。各病棟に広い患者食堂兼談話室を設置しています。開放的な空間の中で、ご家族の方との面会にもご利用いただけます。



透析室



正面玄関



入口

透析室は2階と3階各50床、合計100床に増床します。当院送迎車の乗り入れを2階から直接できるようになり、移動距離が少なくなります。

新病院の周辺には、医療モール、調剤薬局、喫茶店「らんぷ」がオープンしています。他に有料老人ホーム2施設できる予定です。一度ににぎやかな街ができそうで楽しみです！

外来は、新病院へ移転後も専門医師による腎臓内科、糖尿病・内分泌科、整形外科(リウマチ治療含む)、シャント外来、各種検査は変わらず行っています。外来診察の開始は5月7日(月)からとなりますが臨時診察やシャント緊急対応は5月1日(火)開院日より行います

これからが移転業務の最終盤です。4/2引き渡し、4/9竣工式、4/21竣工記念式典・グループ内職員等内覧会、4/22内覧会、4/29振替透析、4/30入院患者搬送、5/1開院となっています。フルパワーで取り組みますので、サテライトの皆様にもご協力をお願いします。





# 透析患者とのコミュニケーション



## 透析患者の特徴とかかわりのポイント

透析患者さんはその患者自身にしかわからない、他者からは理解できないほど身体・精神・社会的負担・苦痛を生涯において抱えています。

- 例：☆週に3回、治療しなければならない苦痛      ☆仕事が十分にできないための経済的苦痛  
 ☆治療のために、長時間ベッドにつながれる苦痛      ☆毎回、太い針を2本刺される苦痛  
 ☆合併症出現への不安・出現時の苦痛      ☆好きなものが食べられないストレス      など

負担・苦痛・不安の大きさは患者さんの背景や導入時の教育などの要因で大きく異なります。過度の不安などで身体症状が出現したり、イライラ感を八つ当たりしたりする患者さんも中にはいます。私たちが透析患者さんとよりよい信頼関係を構築するためには、日頃からよいコミュニケーションを図ることが不可欠であり、その為にコミュニケーション技術を磨くことが必要です。コミュニケーションの一番の基本は「挨拶」です。患者さんに聞こえる声で、顔を見て「挨拶」をしていますか？コミュニケーションの取り方の上手な看護師は相手の反応や変化を観察しながら「挨拶」をきちんとしています。そんな先輩看護師をお手本に患者さんとコミュニケーションをとっていきましょう。

(金山クリニック 藤澤京子)

## 治療的コミュニケーションの基礎

患者—看護師のコミュニケーションは、送り手と受け手が相互に作用する関係が望ましく、そのためには看護師側が治療的コミュニケーション技術を身につけることが患者さんの治療促進につながります。難しい患者さんほどコミュニケーション不足が起きていることが多いのです。以下のポイントを押さえて、日々の患者さんとのコミュニケーションに活用してみましよう。

(新生会第一病院 片村幸代)

## 治療的コミュニケーション技術～無条件無批判で聴く～

オープン クエスチョン	はい・いいえで答えない質問 『どうやって?』『何が?』『どこで』『だれが』
要 約	要約することで相手の話を理解したことが伝わりやすい
繰り返し	相手がいった言葉を『しんどい』『しんどい…』など繰り返か えすことで、話を続けることを促すことになる
明 確 化	重要なポイントを『それは〇〇という意味ですね』
促す短い 言葉	『なるほど』『続けてください』など、話を続ける手助けや きっかけになる
反 応	言葉で共感していることを表す(声・言葉・表情)
沈 黙	沈黙を見守り、気持ちを汲みとる(ゆとりを与える)
現実の 指摘	患者がゆがんだ認知である場合、現実を明確にする(相手を 批判しない)







# 多職種事例検討会が開催されました

(東海クリニック 永尾 洋子)

慢性疾患看護・家族看護の視点で、介入方法を検討することを目標に、多職種事例検討会を実施しました。

- ①名古屋記念病院 家族支援専門看護師 浅岡裕子先生
  - ②名古屋大学医学部附属病院 慢性疾患看護専門看護師 高井奈美先生
  - ③東京有明医療大学 看護学部看護学科・成人看護学・慢性疾患看護専門看護師 杉田和代先生
- の支援を受け、学びは実践に活かされています。



## 各部署事例検討会一覧表(タイトル・部署・参加者数)

開催日	部署	事例のタイトル	参加人数
2017/8/31	血液浄化C、外来、教育	透析導入期、怒りで表現する患者への関わりを振り返る	42名
2017/8/31	新生楽舎3事業所	認知症の母親を介護する家族とのかかわりを振り返る	29名
2017/9/28	十全クリニック	介護に疲れ医療者に助けを求めた家族への関わりを振り返り、今後の支援を検討する	13名
2017/9/28	病棟	透析導入に対して納得が出来ない患者への関わり	19名
2017/10/26	東海知多クリニック	最後まで自宅からの通院透析を望んでいた肝硬変末期の患者と家族への関わりを振り返る	14名
2017/11/30	金山クリニック	難病で加療を要する状態でも妻の介護を手放さない夫への支援を検討する	26名
2017/12/21	鳴海クリニック	精神疾患を有する暴言・暴力行為がある透析患者と家族への関わり	29名
2018/1/25	平針記念クリニック	突然の透析導入による環境の変化に適応困難な患者・家族への介入	29名
2018/2/22	東海クリニック	知的障害の子供を持つ透析歴1年未満の患者と家族への関わり方を考える	23名

## 2施設の検討会の様子をご紹介します！

### 鳴海クリニック

#### 参加の感想

親子関係、母子関係について、過去の生活・発達段階をクリアしていない等、とても納得できるお話でした。的確なアドバイスを頂き、実践してみようと思いました。

非常に勉強になりました。自分の勤める病院で似たような事例があるので参考にさせていただきます。

家族との関わり方や、どう声かけをしたらよいか、自分では考えつかなかったことを気づかされました。

#### スーパーバイザーのコメント

＜杉田先生＞暴言・暴力には理由がある。患者は、感情の表現方法がわからないんだと思う。居心地のいい環境を作ってあげること。患者自身、不安だったと思うので思いを表出できる関わりをしていく。

＜高井先生＞とても難しい事例であり、外来透析でスタッフの皆さんが看ていることが、すごいことだと思う。

成長発達課題を達成していない。これまでの生育歴をあらためてみる。

患者は、SOSを出しているのでも真摯に向き合っていくこと。

＜浅岡先生＞一番は母親で、相互作用で影響し合ってきた。母親から、息子との親子関係をここまで引き出したのはすごい。精神疾患をもつ母親への支援。母のライフヒストリー、歩んできた人生や母親の思いに寄り添うこと。共感し、認めること。家族関係を紐解く支援が大事。看護師が母親との信頼関係を築くパイプ役になることで、患者とも関係ができる。

### 平針記念クリニック

#### 参加者のコメント

「いろいろな意見が聞けて多くの情報得る事ができた」  
「自分がどうしたらよいかを考えるのではなく、患者や家族がどう生きたいか、どう生活したいのか聞いてみたいと思った」

#### スーパーバイザーのコメント

「重要なのは患者の生きたい思い、夫の生きたい思い、どうやって人生を歩んでいきたいかを知ることで、関りのヒントがみえてくる」  
「物事の裏側には背景、歴史がある。家族にも歴史があり、その捉え方はそれぞれ違う。家族を理解するには、それぞれの言葉を聞く必要がある」



70歳代・女性  
夫と二人暮らし  
徐々にADL低下  
介助者である夫  
が疲弊している

長男も含め支援検討